



## フォルクスワーゲン、レーストゥアレグでダカール史上初のディーゼル車による勝利

13ステージ中10ステージを制する圧倒的強さで1-2フィニッシュ

2009年1月17日、ウォルフスブルク発:

フォルクスワーゲンは、1月3日(土)から17日(土)まで、アルゼンチンとチリを舞台に開催された2009年ダカールラリー4輪部門に4台のレーストゥアレグで参戦。6年目にしてついに総合優勝を勝ち取りました。新たに南米に開催地を移したダカール。その初代ウィナーに輝いたのは、レーストゥアレグを駆るジニエル ドゥ ヴィリエール(南ア)/ディルク フォン ツィツェヴィッツ(独)のコンビです。彼らは30年に及ぶダカール史上初めて、ディーゼルエンジンのマシンで優勝を掴みました。さらにチームメイトのマーク ミラー(米)/ラルフ ピッチフォード(南ア)も2位でフィニッシュ、フォルクスワーゲン レーストゥアレグの1-2フィニッシュに貢献しました。

革新的な280PSのTDIユニットを搭載するレーストゥアレグは、人間と機械の究極の試練と呼ばれるラリーにおいて、強力なライバル(全エントリー中14台がディーゼルエンジン)と真っ向から立ち向かい、最速かつもっとも信頼性が高いマシンであることを証明しました。2001年以来連勝を続ける三菱やBMWとのバトルに勝ち、見事総合優勝を成し遂げたのです。ドゥ ヴィリエール/フォン ツィツェヴィッツ、ミラー/ピッチフォード組以外にも、ディーター デッピング(独)/ティモ ゴッシャルク(独)が総合6位でフィニッシュしています。ブルーのレッドブル レーストゥアレグをドライブしたカルロス サインツ(西)/ミシェル ペラン(仏)は、一貫して首位を維持しながらも、ステージ12でアクシデントに見舞われてリタイアを喫しました。

36歳のドゥ ヴィリエールは、2006年ダカールにおいて総合2位の成績を残しています。南アフリカ ツーリングカー チャンピオンの彼は、2003年に初のダカールを経験し、2006年から現在のコドライバー、フォン ツィツェヴィッツとコンビを組んでいます。そのフォン ツィツェヴィッツは、カールショフ出身の40歳。2輪で行われるドイツエンデューロレース界ではその名を知られた存在で、過去15度タイトルを獲得しています。ダカール初挑戦は2輪でしたが、2002年にミラーのコドライバーとして4輪デビューを果たし、2005年にはロビー ゴードンとコンビを結成しました。そして2007年のダカールからは、ドゥ ヴィリエールをナビゲートしています。総合2位となった46歳のミラーは、アリゾナ州フェニックス出身。2002年にダカールにデビューし、2005年からフォルクスワーゲン ファクトリーチームの一員として活躍しています。また、コドライバーのピッチフォードはプレトリア出身で、2006年からミラーとコンビを組んでいます。

スタートからライバルを圧倒

レーストゥアレグ クルーは、スタートからステージベストタイムを連発しました。13ステージ中10カ所でベストタイムを記録し、全14日間の日程のうち12日を暫定首位で終えています。サインツ/ペランが6つのステージを制し、ドゥ ヴィリエール/フォン ツィツェヴィッツが4カ所でトップタイムをマークしました。フォルクスワーゲンは、2004年のダカール復帰以来、5度のイベントに参戦し、31回のステージ優

勝を記録しているだけでなく、80年のダカール初出場から通算すると38のステージ優勝を達成しています。また、今回は4台が出場し、走行した全13ステージ中(1カ所は主催団体 A.S.O.の判断でキャンセル)で、39のトップ3ポジションのうち24を占有しました。各クルーは、3つのステージでトップ3フィニッシュを果たすなど、その実力は伯仲していました。

#### TDI サクセスストーリーに新たな1ページを書き加えたレーストゥアレグ

レーストゥアレグの勝利は、フォルクスワーゲン グループのTDI サクセスストーリーに新たな1ページを書き加えました。時代を先行する直噴テクノロジーは、過去に参戦したすべてのモータースポーツ分野で成功を収めています。たとえば、アウディ R10 TDI は、2008年6月のルマン 24時間において3連覇を達成しただけでなく、2008年ヨーロッパ ルマン シリーズやアメリカン ルマン シリーズも制しています。また、セアトは、レオン TDI により、2008年 FIA 世界ツーリングカー選手権を制覇しました。

#### 史上もっともタフなルートでファンを魅了したレーストゥアレグ

南アメリカに舞台を移したダカールラリーは、史上もっとも過酷なイベントの様相を呈しただけでなく、これまでとは異なった困難を伴ってクルーに襲いかかりました。高速グラベルステージ(ステージ1、勝者の平均速度は143km/h)のほか、柔らかい砂に覆われた砂丘ステージ、小石混じりでトライアルを思わせるルート、標高4,700メートルの高地を2度通過するアンデスのステージ、ダカールと呼ぶに相応しいキャメルグラスに覆われた大地など、従来のダカールとは異なり、毎日ステージの環境が変化したため、クルーとマシンの順応性が試されることにもなりました。

ピバークやステージフィニッシュには、大勢のファンが待ち受け、過酷なステージを完走したドライバーとコドライバーを祝福しました。1月2日、プエノスアイレスで行われたセレモニアルスタートには、50万人ものファンが大挙し、ルート両側から合計530台のモト(モーターサイクル)、クアッド(4輪バギー)、オート(4輪)、カミオン(トラック)に熱い声援を送りました。

#### 1980年以來、2度目の勝利

フォルクスワーゲンは、1980年ダカールラリーで初出場初優勝をマークしています。フレディ コトゥリンスキー/ゲルハルト レッフェルマンは、市販バージョンとほぼ同一のフォルクスワーゲン イルティスで第2回ダカールに参戦、同僚のパトリック ザニロリ/フィリップ コルスに従え、堂々の1-2フィニッシュを記録しました。同年のラリーでは、イルティスが4、9位にも入っています。フォルクスワーゲンがTDIテクノロジーで武装した第1世代レーストゥアレグでダカールに復帰したのは2004年のことです。翌年の2005年と2007年にFIA クロスカントリーラリー ワールドカップを獲得しています。そして2009年ダカールでは、レーストゥアレグにとって過去最高の実績となる1-2フィニッシュを達成しました。

#### クリス ニッセン(フォルクスワーゲン モータースポーツ ディレクター)

「やりました！ダカールラリーをディーゼルパワーで制した初のメーカーになりたい、と思っていましたが、苦しみながらもその目標を達成することができました。しかも1-2フィニッシュです。フォルクスワーゲンは、この歴史的勝利を心から誇りに思っています。今年のダカールは、かつてないほど厳しく、とりわけマシンには残酷なほどの試練を突きつけてきました。フォルクスワーゲンは、頑強さと信頼性を発揮し、これに打ち勝ちました。4台のレーストゥアレグのうち3台が完走しています。リタイアした1台も、原因はメカニカルトラブルではありません。ドライバー、コドライバー、そしてスタッフ全員に感謝と祝福の言葉を贈ります。」

#305 -- ジニエル ドゥ ヴィリエール(南ア)、首位(ステージ 14)/総合首位

「フォルクスワーゲンに快挙をもたらしたことが本当に嬉しいです。ツーリングカーでは、過去いくつもタイトルを獲ってきましたが、そのすべてを合計しても今回の勝利には及びません。今回は、ステージ 12 が大きな分岐点になったようです。ステージ 12 までは、このまま 3 位で終わると思っていました。あのステージを終えると、我々が首位に立っていました。なぜか 2003 年に大量リードを稼ぎ出しながらリタイアに終わったステファン ベテランセルのことを思い出しました。非常に過酷な今回のイベントで、レーストゥアレグはその魅力と実力を遺憾なく発揮してくれました。だからこそ、こうして成功を手にしたのだと思います。フォルクスワーゲンの全スタッフに感謝しています。ダカールと言えば、私のイメージではアフリカなのですが、今回も間違いなくダカールでした。また、私が出場したイベントの中でももっともタフなレースだったと思います。」

#305 -- デイルク フォン ツィツェヴィッツ(独)、コドライバー

「言葉では言い表せない感激と安堵感に包まれています。最後の最後まで、強烈なプレッシャーを感じていました。最終ステージを走り終えて、ようやく自分たちが勝利したのだと実感することができました。私自身、モータースポーツの悲劇を何度も味わってきましたから、すべてが終わらないと安心できないようです。フォルクスワーゲンとともに総合優勝を成し遂げたのは、本当に素晴らしいです。ステージ 12 はとにかくタフで、ここを完走して、『もしかしたら勝てるかもしれない。いや、今回勝たずしていつ勝つんだ?』という思いが芽生えてきました。2 輪、4 輪すべてのキャリアを振り返っても、今回以上の出来事はありません。まさに夢のようだ、と言うしかないでしょう。」

#308 -- マーク ミラー(米)、6 位(ステージ 14)/総合 2 位

「厳しいラリーでしたが、フォルクスワーゲンにとって素晴らしい結果になりました。自分が 1-2 フィニッシュに貢献できたことが嬉しいです。今回のラリーは、アフリカで開催されていた頃と遜色がないどころか、それ以上に過酷でした。フィアンバラ - リオ八間のステージは、おそらく私の知るかぎりもっともタフでしたね。今回のラリーは、一生記憶にとどまるでしょう。フォルクスワーゲン チームとレーストゥアレグは、長いラリーの間、一度として我々の期待を裏切ることはありませんでした。」

#308 -- ラルフ ピッチフォード(南ア)、コドライバー

「素晴らしい結果を成し遂げたフォルクスワーゲンに祝福の意を表します。走り甲斐のある楽しいラリーでしたが、同時にドライバーやコドライバーにとって非常にチャレンジングなイベントでした。今回はマークと私にとって最高のリザルトでした。マシンも一貫して素晴らしく、人車一体感を覚えながらフィニッシュすることができました。だからこそ、絶対に忘れられないラリーになったのです。」